

人間行動基礎論

繁樹 算男 [持ちこみ不可、回答はすべて解答用紙に記入してください。Aに関しては記号で答えること。]

A. 次の問題に対し、もっとも適切な選択肢を一つ選べ。

1. 短期記憶の説明としてもっとも適切なものはどれか。

- a. リハーサルによって記録される。
- b. 1秒程度保持される。
- c. 情報のまとまりを70個ほど保持する。
- d. 認知活動の中心である。

2. エピソード記憶の説明として不適切なものをひとつ選べ。

- a. 実際に経験したことの記憶である。
- b. カテゴリーによる記憶である。
- c. 時間的空間的に特定できる。
- d. 自分に関わっていることの記憶である。

3. 期待効用とは次のうちどれをさすか。

- a. 予想される複数の結果の主観確率による平均である。
- b. 予想される複数の結果の効用の最大値である。
- c. 期待される望ましい結果の効用である。
- d. 代替案に対し期待される程度の指標である。

4. 伝統的な知能指数 (I.Q.) の説明として正しくないものはどれか。

- a. (精神年齢 / 生活年齢 (暦年齢)) × 100 として定義される。
- b. 各年齢において平均値はほぼ一定である。
- c. 各年齢において標準偏差はほぼ一定である。
- d. 個人検査、集団検査ともに使われる。

5. 内発的動機付けをもたらす源泉として、適当なものを選べ。

- a. 知的好奇心と有能さ
- b. 知的好奇心と賞罰
- c. 制御可能で内的な原因への帰属
- d. 内的で安定な原因への帰属

6. 次のテストのうち、投影法でないものを一つ選べ。

- a. TAT
- b. SCT(文章完成テスト)
- c. MMPI
- d. ロールシャッハ検査

7. カウンセリング場面における感情転移の説明として適当なものを選べ。

- a. 感情が端的に変化すること。

- b. ある種の感情を本来の対象ではないカウンセラーに対して抱くこと。
- c. クライエントの感情を実感すること。
- d. 親の感情を自分のものとすること。

8. ピアジェによれば液量の保存課題が正答でき始めるのは次のどの時期か。

- a. 感覚運動期
- b. 前操作期
- c. 具体的操作期
- d. 形式的操作期

9. 次のうち信頼性を推定する方法ではないものを選べ。

- a. 平行テスト法
- b. 再テスト法
- c. 折半法
- d. 基準関連法

B. 以下の間に答えよ。

1. 錯視の存在は人間の知覚の基本的特質を物語るものであるか？
2. 不登校という不適応行動の原因としての無意識の働きを考察せよ。
3. 記憶を増進するための心理的方法を説明せよ。
4. 質問紙法と投影法の長所と短所を比較し、両方法を統合する方策を考えよ。